

(別紙)

様式第1号(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度 美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会 (第1回)
開 催 日 時	令和5年3月22日(水) 13時30分 開会 14時34分 閉会
開 催 場 所	美幌町役場庁舎2階 第2会議室
出 席 者 氏 名	鹿野委員、漆原委員、伊藤委員、信太委員、酒井委員、山本委員、 村田委員、岩本委員、岩堀委員
欠 席 者 氏 名	福田委員
事務局職員職氏名	平野町長、小室総務部長、沖崎政策課長 政策統計グループ 辻主査、佐藤主事
議 題	第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
会議の公開又は 非公開の別	公開
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	—
傍聴人の数 (会議を公開した場合)	0名 ※報道1名
会議資料の名称	【資料1】第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況 【参考資料】第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 録音データを使用した全部記録
	<input type="checkbox"/> 録音データを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
<p>小室部長（事務局）</p>	<p>【開会】</p> <p>ご案内の時刻となりましたので、ただいまより令和4年度第1回美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会を開催いたします。</p> <p>本日はお忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>私は、当委員会の会長が選出されるまでの間、進行を務めます総務部長の小室でございます。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>はじめに、平野町長から皆様に委嘱状の交付を行います。</p> <p>私がお名前をお呼びいたしますので、恐れ入りますがその場でご起立のうえ委嘱状をお受け取りいただきたいと存じます。</p> <p>（委嘱状交付）</p> <p>以上で委嘱状の交付を終わります。</p> <p>なお、当委員会につきましては、ただいま委嘱状を交付いたしました9名の皆さまに、本日、都合により欠席されております福田春美様を加えた、総勢10名の皆様によって構成されていることをご報告いたします。</p> <p>皆様には人口減少対策と地方創生の取組を進めるため、美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定及び推進につきまして、ご審議をいただくこととなります。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、平野町長よりご挨拶を申し上げます。</p>
<p>平野町長</p>	<p>あらためまして、皆さんこんにちは。</p> <p>本日はお忙しい中、令和4年度の第1回美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会にご出席をいただき誠にありがとうございます。</p> <p>ただいま今任期の委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきました。</p> <p>今日から令和7年3月21日までの2年間の任期になりますけれども、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>委員の皆様には総合戦略について色々と審議いただくこととなります。いま、司会の総務部長からもお話しさせていただきましたけれども、私どもが内部で色々とまとめたものを代表の皆さま方がしっかりと、その中身を見ていただいてご意見をいただく、そしてそれをどう推進するかということの色々ご意見いただくというのが大事なことかなというふうに思っています。美幌町においても少子化というか、人口減少が続いております。</p> <p>私がこの何年か前ですか、町長になった時に令和4年の出生者数は多分100人は超えるだろうと、100人は維持できるだろうかと思ってたのですが実際には69名でした。</p> <p>これは本当に、正直言ってちょっとショックでした。</p> <p>ですから、これから否応なしに人口が減少する。これはもうやむを得ないかなというふうに、そのことはどこかで受け入れる必要があるのかなという思い。そのことは受け入れるけれども、やれることは、やはり町民の皆さんとですね、こういう言葉はあまり適正ではないですけれども、なりふり構わず、少しでも人口が維持できる、また、美幌でお子さんを作っていただける環境をですね、やっぱり努力しなきゃいけないかなと思っております。そういう意味ではこの戦略というのは、重要な部分ではありますし、皆様のご意見をいただいて足りないところをしっかりと修正をしながら、そして実際、その施策を皆さんに再度、評価をしていただいて、美幌</p>

<p>小室部長（事務局）</p>	<p>町が未来に向かって今以上に栄えていくように努力していきたいと思いたすので、どうぞ皆さんのご協力をお願いしたいと思います。2年間ではありますけれども、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。</p> <p>ここで、委員の皆様から自己紹介を兼ねまして、一言ご挨拶をいただきたいと存じます。恐れ入りますが、委嘱状を交付させていただいた順にご挨拶をいただければと思います。</p> <p>鹿野様からよろしく願いいたします。</p>
<p>鹿野委員</p>	<p>団体推薦で美幌町農業協同組合から参りました鹿野と申します。農協では総合企画推進室の室長をやらせていただいております。初めて委員になりましたのでよろしく願いしたいと思います。</p>
<p>漆原委員</p>	<p>美幌町森林組合から来ました、組合長をやっております漆原です。この仕事は今回初めてということで、資料なんかも見せていただきましたけれども、本当に現況なかなか厳しい状況だなと思うんで、できるだけ良い知恵を絞っていいものになるように協力したいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>美幌商工会議所の伊藤と申します。私も前任者の交代でこの度、委員にさせていただきました。そのため、自分も正直、この総合戦略は見たことがあるんですけども、しっかり関わってはこなかったもので、これを機にしっかりと関わらせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>信太委員</p>	<p>みなさん、こんにちは。</p> <p>美幌観光物産協会の事務局長の信太真人と申します。</p> <p>前期に引き続き、今期も参加させていただくこととなりました。微力ではございますけれども、観光の分野ですとかでお役に立てることがあればと思っております。また、自分自身もこの場で勉強させていただきたいと思いたすので、皆様よろしく願いいたします。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>美幌高等学校校長の酒井でございます。美幌町唯一の高等学校、また、高等学校は、子どもたちが社会へ飛び立つ、その接点でもございます。そのような意味で高等学校の校長として美幌町の人口減少問題等、様々な問題等の危機感を感じておるところでございます。私も微力ではございますが精一杯頑張りたいと思いたすのでどうぞ皆様よろしく願いいたします。</p>
<p>山本委員</p>	<p>こんにちは。網走信用金庫で支店長をしております山本と申します。前期に引き続きの委員となりますのでよろしく願いいたします。微力ながらお手伝いさせていただければと思っております。よろしく願いいたします。</p>
<p>村田委員</p>	<p>美幌地区連合会特別執行委員という立場で参加しております。村田純一と申します。私も初めから関わっておりまして、色々意見を言わせてもらっておりますけれども、人口減を食い止めるというのは、どこのまちも同じですけれども、難しいということで少しでも皆さんの知恵で改善されればいいのかなと思いたすので、よろしく願いいたします。</p>

岩本委員	<p>こんにちは。北海道新聞北見支社営業部の岩本と申します。団体推薦でこの度委員を引き受けることとなりました。</p> <p>日頃より北海道新聞をご愛顧いただき誠にありがとうございます。私は会社の方では営業部ということで広告事業を主に携わっております。事業においてはビホロデュアスロン等でも美幌町と関わりを持たせていただいております。北見支社なので少し外からのご意見になるかもしれませんが、いけれども微力ながら頑張りたいと思いますのでよろしく願いいたします。</p>
岩堀委員	<p>一般公募の岩堀と申します。よろしく願いいたします。東京で撮影の会社をやっているのですが、昨年美幌町に移住してきました、この町の住み良さをすごく、すでに感じているのもっと良い町になってほしいなと思ひまして、何かご意見が出来ればと思ひております。よろしく願いいたします。</p>
小室部長（事務局）	<p>ありがとうございます。続きまして、当委員会の事務局職員をご紹介します。</p>
沖崎課長（事務局）	<p>政策課長の沖崎寿和と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p>
辻主査（事務局）	<p>政策統計グループ主査の辻と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p>
佐藤主事（事務局）	<p>政策統計グループの佐藤と申します。よろしく願いいたします。</p>
小室部長（事務局）	<p>続きまして、会長及び副会長の選任を行います。</p> <p>会長及び副会長の選任につきましては美幌町附属機関に関する条例第7条第2項別表に定めるとおり、委員の互選により行われることになってございます。任期は委員の任期と同様、2年間となります。</p> <p>皆様の中で自薦あるいは他薦がございましたらご発言をいただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。</p>
信太委員	<p>事務局に一任がよろしいかと思ひます。</p>
小室部長（事務局）	<p>ただいま事務局に一任ということでご発言をいただきましたけれども事務局から案をお示しするというので皆様よろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>了承</p>
小室部長（事務局）	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは事務局から案をお示しさせていただきたいと思ひます。会長には、美幌地区連合会の村田委員を、副会長には美幌商工会議所の伊藤委員をそれぞれ推薦したいと存じますが、皆様いかがでしょうか。</p>
委員一同	<p>拍手</p>

小室部長（事務局）	<p>ありがとうございます。 皆様のご承認をいただきましたので会長には村田委員を、副会長には伊藤委員をそれぞれ選任させていただきます。 村田会長、伊藤副会長は正面のお席へ移動をお願いいたします。 それではここで、会長、副会長からご挨拶をいただきたいと思ひます。 まず初めに村田会長、よろしくお願ひいたします。</p>
村田会長	<p>只今、会長に選任されました美幌地区連合会特別執行委員の村田です。 今回の10人の委員の中で経験者が3人ということで、その中で多分私が一番年上なんだろうということで、会長をやってくれということだと思います。そういうことですので、私もこういう会の会長は初めてですので皆さんのご協力が無ければ会議も進みませんのでよろしくお願ひしたいと思ひます。 この委員会は、人口減少をいかに食い止めて、まちの発展に繋げるかということが大きな課題となってきますけれども、新型コロナの影響でこの3年間の出生率は予想以上に低下していると、そのことによって当初の計画より厳しい状況になっているのではないかという風に思ひます。 国は、次元の異なる少子化対策ということで年収の壁の解消や男性の育児休暇取得率の向上を掲げていますけれども、2021年度で21%だった男性の育児休暇取得率が2025年度で50%、2030年度で85%にすることができるかどうか、これは非常に厳しいと感じています。2022年度の出生数は79万9千人ということですが、過去最低ということで、特に厳しい状況が続いているのではないかと思ひます。 委員の皆さんは、それぞれの団体を代表して美幌町を少しでも住みやすくしたいということで参加されていると思ひますし、公募に応じた方につきましても、それぞれの立場から活発な意見をいただいて有意義な会議になるようにご協力をお願ひしたいと思ひます。 ただ、今日は残念なことに女性の委員が1人欠席ということで、女性が委員の中で1人しかいないということで、これも委員会としては、もう少し、全体の半分近くまでいていただければいいのかなと思ひますけれども、こういう中で進めていきたいと思ひます。 よろしくお願ひします。</p>
小室部長（事務局）	<p>続きまして、伊藤副会長お願ひいたします。</p>
伊藤副会長	<p>改めまして、美幌商工会議所で専務をしております、伊藤と申します。この度、副会長ということで仰せつかりまして、正直緊張しているところもあるんですけど、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は美幌町にとって上位を占める計画だと思っております。 そういった意味では本当に大切な委員会になるかと思ひますので、しっかり会長をサポートしながら、皆さんと様々な意見を出しながら委員会を活発に推進できるように頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
小室部長（事務局）	<p>ありがとうございます。平野町長におかれましては、次の公務が入っておりますので、ここで退席をさせていただきます。</p>
平野町長	<p>ここで退席しますが、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
小室部長（事務局）	<p>それでは、本委員会の進行につきまして村田会長にお願ひをいたしたいと思ひます。</p>

<p>村田会長（司会）</p>	<p>それでは、次第の5番になります。 第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>佐藤主事（事務局）</p>	<p>（事務局説明） 事務局の佐藤でございます。 本日は私の方から説明をさせていただきたいと思っております。 まず初めに、お手元の資料の確認ですが、議案と資料1、参考資料として総合戦略の冊子をお配りしております。 それでは座って説明させていただきます。</p> <p><美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会について> 今回、初めて当委員会の委員となられた方々がいらっしゃいますので、始めに当委員会の概要をご説明いたします。 こちらの議案に「美幌町附属機関に関する条例」から抜粋したものを添付しております。</p> <p>当委員会は、こちらの条例に基づいて設置しており、所掌事項は条例の最後の部分、別表に記載がございまして、「美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定及び推進について審議し、意見を述べることとなっております。</p> <p>続きまして、参考資料「第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略」をご覧ください。 2枚めくっていただき、目次をご覧ください。後ほどご説明いたしますが、皆様には第1章「美幌町人口ビジョン」、第2章「美幌版総合戦略」の2点に関しての方向性や具体的な施策に関してご審議いただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p><美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略について> 引き続き、この総合戦略の概要についてご説明いたします。 表紙をめくっていただき、「はじめに」をご覧ください。 まち・ひと・しごと創生の動きの始まりについてご説明いたします。 「人口減少に歯止めをかけること、首都圏や都市部への過度な人口の集中を是正すること」などを目的として平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。 この法律に基づき、国において「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定され、我々地方公共団体におきましても「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定に努めることとなりました。 この動きを受けて、美幌町は平成27年度に「第1期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。</p> <p>現行の第2期総合戦略は、第1期総合戦略の計画期間が終了する平成31年度に、策定案を作成し、当委員会における審議やパブリックコメントを経て、令和2年度に策定いたしました。 総合戦略は2040年までの美幌町の人口についてまとめた「美幌町人口ビジョン」と美幌町の人口の将来展望を実現するための取組をまとめた「美幌版総合戦略」の2つで構成されています。</p>

<第1章 美幌町人口ビジョンについて>

続いて、総合戦略の1ページをご覧ください。
美幌町人口ビジョンについてご説明いたします。
美幌町人口ビジョンは「人口の現状分析」と「人口の将来展望」の2つで構成しています。

<人口の現状分析について>

まずはじめに、美幌町の人口の現状分析ですが、本町の人口は昭和60年に最大の人数となっておりまして、人数は26,686人となっておりまして、こちらを境に減少を続けている形になります。人口減少の主な要因は、死亡数が出生数を上回る「自然減」と転出数が転入数を上回る「社会減」とされています。

本年2月末現在の美幌町の人口は18,096人です。

人口推計値と比較すると僅かではありますが約300名ほど少ない状況となっております。

人口の動きとしましては、令和2年に老年世代の人数がピークを迎え、以降減少傾向となっております。

2040年には若年世代と老年世代の人数はほぼ等しくなると推計されています。

こうした人口の変化が地域に与える影響として、税収の減や公共施設の利用者数減により施設の維持管理や更新が難しくなることや地域産業の担い手不足、自治会等のコミュニティ機能の低下が懸念されております。

人口の現状分析についてのご説明は以上となります。

<人口の将来展望について>

続いて24ページをご覧ください。美幌町の人口の将来展望となります。先ほどご説明しました、人口の現状分析の結果、自然減や社会減により人口が減少していることが明らかとなりましたので、これらの対策についてまとめたものになります。

自然減への対応は、結婚、出産、子育て世代の人数を確保し、出生数を増やすことが必要とされています。社会減への対応は、美幌町民が町内に住み続けられる環境づくりや町外からの移住者、交流人口、関係人口の増加に向けた取組が必要とされています。

これらのことを踏まえて、美幌町が目指す姿を「未来に向けて高い持続性と自立性を保った魅力的な地域社会」とし、これらの実現に向けて人口減少の流れを抑制するために、25ページに記載しております3つの方向性、「就業の場の確保」、「子育ての環境づくり」、「生活環境の確保」を定めております。

美幌町の人口ビジョンについての説明は以上となります。

<美幌版総合戦略について>

続いて、27ページからになりますが、美幌版総合戦略についてご説明いたします。

趣旨については重ねてになりますが、第1期総合戦略が最終年度を迎えたことによりまして、戦略の見直しをしたうえで令和2年度から令和6年度を計画期間として策定したものになります。

続いて、28ページをご覧ください。

現行の戦略の位置付けについてでございます。

美幌町の最上位計画である「第6期美幌町総合計画」というものがございまして、この計画の「人口減少対策」や「地方創生」の内容に特化した

ものを記載したものがこの総合戦略となっております。

続きまして、29ページ中段の5（1）以下をご覧ください。

総合戦略の推進管理は当委員会や市内組織である「まち・ひと・しごと創生本部」、30ページの③に記載の「プロジェクトチーム」により行います。数値目標や重要業績評価指標、いわゆるKPIやPDCAサイクルによる管理も行っております。

続きまして、32ページをご覧ください。

ここでは美幌版総合戦略を策定するにあたり、政策の5原則、「自立性」、「将来性」、「地域性」、「直接性」、「結果重視」について記載しております。詳細の説明につきましては省略いたしますので、後ほどご覧いただけたらと思います。

ここまでの内容を踏まえ、第2期総合戦略では、10代～40代までの人口減少対策を特に重視し、35ページから記載のあります基本戦略について、大きく4つの基本目標とそれぞれに対応する施策で構成されています。

この戦略は令和6年度までの目標数値を定め、各施策に取り組んでいる状況でございます。

以上が第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要となります。

<総合戦略の進捗状況について>

ここからは、「資料1 第2期美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況」について、総合戦略の冊子と併せてご説明させていただきます。

冊子の35ページをご覧ください。

基本戦略について記載しております。

基本目標1「地域の基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場をつくる」ということについて記載しております。

数値目標は2つございまして、ハローワーク美幌に掲載されております「新規求人数」と、町内の給与収入者のうち年収200万円を越える給与収入者数についての数値目標を設定しております。資料1の表に令和2年度と令和3年度の実績値を記載しております。

新規求人数につきましては令和3年は1,334人、数値目標1,100人を上回る数値となっております。

続きまして、200万円を越える給与収入者数については5,693人ということで、こちらも数値目標5,600人を上回る実績となっております。

関連するKPIについてですが、冊子36ページになりますが、農業販売高、令和6年度までに128億円という数値目標に対して令和3年度は127億円ということで、目標の達成に迫っている状況でございます。

続きまして37ページになります。

観光入込客数ですが、こちらは美幌峠の観光入込客数でございます。令和2年度は389,510人ということで、新型コロナウイルスの影響で落ち込んでおりましたが、令和3年度は461,978人ということで盛り返している状況でございます。

続いて38ページになります。

基本目標2「びほろらしさを活かして、ひとを呼び込み・呼び戻す」について、数値目標は20代から40代の働き手世代の転入者数と転出者数の差ということで記載しております。数値目標Δ37人に対して、令和3年度はΔ69人となっており、目標の達成には至っていない状況となっております。

続いて39ページになります。

関連するKPIについてでございます。

移住体験施設の利用件数は令和2年度は新型コロナウイルスの影響で移住体験施設を閉鎖しておりましたが、令和3年度から一部再開しております。全体を通して3件の実績となっております。

令和4年度については平常時の体制で再開しております。実績も現時点で16件となっておりますので、移住体験者の受け入れ等を充実させていければと考えております。

続いて、資料1の2ページ目。冊子の40ページをご覧ください。

基本目標3「このまちで出会い結婚し、子どもを生み育てたいという希望を叶える」でございます。

数値目標は、合計特殊出生率で令和6年度までに1.70となっております。令和3年度の実績は1.28ということで目標値には到達できていない状況でございます。要因としましては、新型コロナウイルスの影響で関連する施策の実施が計画どおり実施できていないという状況となっております。

関連するKPIとしましては、美幌高校の入学者数で、目標値が令和6年度80人となっております。令和3年度は57人となっております。令和4年度は67人ということで入学数増となっております。高校の魅力化等の施策について町も支援させていただき取組を推進していければと考えております。

続いて、冊子の44ページをご覧ください。

基本目標4「住み続けたいと思える生活環境を整える」になります。

基本目標は「美幌町に住み続けたいと思う人の割合」と「人口」の2つについて記載しております。

「美幌町に住み続けたいと思う人の割合」は第6期総合計画を策定する際に実施した町民アンケートの結果を記載したのになりました。実績は77.1%となっており目標値の85.0%には到達できていない状況でございます。

「人口」については目標値18,368人に対して令和3年度で18,349人となっており若干目標値を下回っている状況でございます。

関連するKPIでございますが、美幌高校生の町内企業への就職者数ということで、目標値20人に対して令和3年度13名となっており、目標値を下回っている状況でございます。

また、若者世代10代から30代の「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と思う人の割合は目標値85.0%に対して85.4%となっております。若い世代の方々が町内で就職していただくといった流れを作っていける施策が求められているといった状況となっております。

私からの説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

村田会長（司会）	<p>（質疑応答）</p> <p>ただ今、説明がありましたが皆さんの方からご質問はありませんか。初めて聞いた方はすぐに理解するのは難しいかもしれませんが、どんなことでも構いません。</p>
山本委員	<p>基本目標1の数値目標で「新規求人数」が令和3年度は増えているんですけど、人手不足で求人数が増えていると思うんですけど、求人を出して実際に雇用となった方の数字は押さえていますか。</p>
佐藤主事（事務局）	<p>現時点では押さえておりません。</p>
山本委員	<p>求人出してどれだけ雇用できているかという数字がわかったほうが良いのではないかと。</p>
村田会長（進行）	<p>数字を調べていただくと、興味があるので。</p>
佐藤主事（事務局）	<p>はい。数字について出せるか確認してみます。</p>
伊藤副会長	<p>初めてなので教えて欲しいんですけど、参考資料の31ページにPDC Aサイクルを回すということでお話があったと思うんですけど、それがひとつの部分でKPIの数値目標に対する実績が報告されたと思うんですけども、この実績値に対して今後、内容の見直しはしていくのですか。見直しはどのタイミングでしていく形になるのですか。</p>
佐藤主事（事務局）	<p>進捗管理について毎年度、実績値を集計し、状況を踏まえて随時見直しをかけていく形になります。人口減少対策に関する取組等が追加となった場合には、そちらも盛り込みながら一体的に管理していくこととなります。</p>
伊藤副会長	<p>例えば、それはいつ話し合いになるのですか。</p>
佐藤主事（事務局）	<p>令和4年度実績を取りまとめ、令和5年度に委員会を開催させていただく予定となっております。</p>
村田会長（進行）	<p>200万円を越える給与収入者数とあるんですけども、私は社会福祉協議会の理事もやっており、社協からコロナにおける給付金の関係で、美幌町でも約220件、金額合計8,000万円の借入をしており、多い方で個人で200万円を借り入れしているということなんですよ。今年の1月からそれを返済することになるんですけども、そういうところで、200万円を越える収入があったところで、安定したとは言い切れないですよ。200万円を越える人だけではなく、200万円を越えない方の統計も必要なのではないかなと。特に、コロナが経過したあとですから、そういった人たちを何とかしないと、さっき言ったように、約220件、8,000万円ですから、町民の生活が厳しくなっていくのではないかなと。その辺も気を付けていた方がいいのではないかなと思います。</p>
辻主査（事務局）	<p>非課税世帯の割合ですとか。</p>
村田会長（司会）	<p>200万円以上よりも200万円以下のの方が気になるかなというふうに思うんですよ。色んな部分でコロナの影響が今後でてくと思うので、計画の内容も変えざるを得ないのかなというふうに思うんですよ。</p>

<p>辻主査（事務局）</p>	<p>そうですね。目標値ですとか。</p>
<p>村田会長（司会）</p>	<p>目標値を達成できないのではないかという風にも思うので。 それはそれで、令和6年度までの実績を見て、見直すのもいいのかもしれないですけども。 他の方からはよろしいですか。 それでは、今の内容について検討していただくということで次回までに出せるものがあれば報告してもらおうということで。</p> <p>それでは、次第6「その他」になります。 全体を通して、委員の皆様から何かありますか。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>美幌高校の校長の酒井でございます。 先ほど、挨拶の中でも述べましたけれども、人口減少と高校の関係については非常に危機感を持っております。現在、困っていることがありますので、情報共有させていただきたいと思えます。 本会議の趣旨に沿っていると思えますので、この場で高校の現状を報告するという事で情報を共有させていただきたいと思えます。 美幌町だけではなく、生産年齢人口の減少というのは自治体にとって深刻な現象であることは理解しております。その中で、高等学校の果たす役割も十分理解しており、責任を感じているところでございます。そのうえで高校の魅力化ということで、これは美幌だけではなくて様々なところで高校の魅力化という言葉が使われておりますけれども、若干の違和感を感じているところで。 それは、生徒の取り合いになっているのではないかとこのところでは。そもそも高等学校の魅力化は何なのかというところを改めて自分自身で考えているところでございます。以前、講演会に出たことがあります。その時にですね、高等学校が無くなるというのは病院が無くなるよりも経済的なインパクトが強いという講演会を耳にしました。 私がここで説明するのはお間違いといいますか、私がなぜ言うのかという話になるのかもしれませんが、高校がある町と無い町を比較すると、人口減少率には明らかに大きな差があるというふうに述べられておりました。高校が無い町からは人口が流出し、人口の流入も無くなると。 経済的には、これは講演会の受け売りですので本当かどうかはわかりませんが、経済的には高校が単体として町から無くなると年間1億円の損失、ただ、人口流出等を加味した地方貢献率を加味すると年間2億円の損失になるというふうな説明を受けて、ちょっとドキドキしたところでございます。 美幌町には美幌高校しかないのです、美幌高校がもし無くなってしまいうということになったら町がどれだけの経済的な損失を受けるのだろうかということで、校長としてはちょっとハラハラの話でした。 そこで、先ほど違和感を感じている、生徒の取り合いになっているのではないかとこの話をしたのですが、そもそも高校の魅力化というのは何だろうと考えたときに、単に高校を残すのではなく、ふるさとを残すということなんだと、だから高校を残すということはふるさとを残すということであるというふうに私は理解しました。 従いまして、自治体と今後も一緒になって高校を残すという動きが大事であり、今も充分支援をしていただいておりますけれども、今後も引き続きご支援をお願いしたいところでございます。 もし高校が無くなると他の自治体の高校へ通わせなきゃいけない家庭が増え、人口減も加速するのではないかと思います。校長として、高校の存</p>

続には危機感を感じているところでございます。

そこで、今般困っているところを簡単に皆様にお伝えしたいと思います。K P Iを出されておりました、先ほど発言しようか迷ったんですけど、本校の生徒減少には歯止めがかからない状況でございます。

今年度、いま高校入試の最中でございます、このあと二次募集もございしますが、今年度の現段階での入学者選抜におきまして、普通科の定員は80名でございます。それに対し、現在30名を割っている状況です。28名とかっていう数字です。このあと辞退とかっていうのも出てきたり、あるいは二次募集もあるので変動はすると思っておりますけど今の段階では30名を割るような状況。

それから農業科につきましては今年度から定員80名から40名に、半分になりました。その中でもありましたが、現在のところ20名を割るような状況でございますので、普通科は30名を割る、農業科は20名を割るとなると合計すると50名を割るのではないかというような状況でございます。

町内からですね、生徒はちょっと減少しているところはあるんですけども町外から、また、道外から生徒を集めている動きもございします。生徒は減っているのですが、寮がございします。寮というのはオホーツクにひとつしかない農業科で学びたいという生徒が地域みらい留学で本州から来た生徒を受け入れております。生徒は減っておりますが、寮生は増えている状況です。

今年、本当に多大なるご支援をいただきまして、本校に入学したい女子生徒が、美幌町には女子生徒を住ませることができるところが無いということで泣く泣く違う学校に行ってしまったという反省を受け、寮の半分を女子寮にするということで、女子にとってはすごくありがたいことなんですけど、男子にとっては、さらに住むところが無くなって、今年度はどうにかなるのかもしれないけれども、これ以上増えたら町に住むところが無いので、これ以上は違うところ、例えば北見とか、そういうところから通ってもらうこととなります。というような話をしなければならぬな、というふうに思います。ですから、人数を制限して入学者の募集をするような必要が出てくるのかなというふうに思っております。それが困っています。

それから、教員数も大幅に減少いたします。令和7年度には今あの、教諭という教壇に立つ教員がですね32名ということであるんですけど、令和7年には16名と半分というふうになる見込みであります。そうになると、部活動、それから寮の宿直これは本校の職員がやっておりますけど、これ非常に厳しい状況になりまして、現在、道教委からの制限もある中ですがどうか外部の人材をお願いして宿直の方をお願いしようということでハローワーク、それから自衛隊の方にもお願いして募集しているところですが、なかなか人数確保ができない状況であります。

外部人材も確保できないようであれば、近い将来に閉寮もやむなしになってしまうような状況なんですけど、もし寮が無くなると高校生が住む下宿が無いというところで、どうなるんだろうというところが困っているところなんです。

それから、部活動についてなんですけど、部活動についても実は困っております、高校生はどこ的高校を選ぶの、というところで、北見とかに行く生徒がいるんですけども、今度細かく調査したいと思うんですけど、やはり部活動が無いというところもあるようでございます。

道立の学校というのは、遠征費、高体連とかの遠征費を皆さんのお金を出し合って行っています。およそ400万円ぐらいのお金で行くんですけど、生徒が減ってくると、このお金も無くなってきます。財政が非常に

	<p>今でもひっ迫してはいますが非常に厳しい状況でございます。</p> <p>皆様ご存知のとおり、本校のスキー部は非常に活躍しております。全国にも行っております。ひょっとしたら将来オリンピックにも行くんじゃないかというふうに思っておりますけれども、非常に私は嬉しい事なんです。が、反面で財政面あるいは地方から本校にスキーをしたいんだと来た時に住むところが無い、お金も無いってことになったら困るなというようなところが将来的には困っているところでもあります。</p> <p>事実、今年度は陸上部、バスケットボール部、サッカー部をやむなく募集停止ということになりました。これからは1ないし、3の部活動を募集停止にしなければ教員が少ないので、することが出来ないというような見通しもございます。</p> <p>美幌町は、私もすごく好きな町でございます。非常にスポーツも活発で子ども達が非常に頑張っているというそういう町でございますが、このままだったら、そういう生徒たちが人口流出ということで近隣の市町に行ってしまうのではないかというような懸念もございます。スキー部は非常に好事例なんです。町の組織というか少年団と非常にうまくやっています。</p> <p>このように町との連携を今後できれば、地元の子を地元で育成するということができるんじゃないかなというふうに思っております。ちょっと長くなりましたけれども、是非今後も美幌町と一体となつてふるさとの魅力化それから高校の魅力化を図って参りたいと思っておりますので、困っていることと自分の決意みたいなものを合せてお話しさせていただきました。お時間ありがとうございます。</p>
<p>村田会長（司会）</p>	<p>どうもありがとうございます。</p> <p>今の、生徒の取り合いという部分で言えば、たしか道新さんだったか、NHKだったか忘れちゃったけど、遠軽の部活で吹奏楽と野球とラグビーで100人ぐらい外から来るんだというようなことを聞いたことがあるのと、町のスポーツ推進計画の委員もやってるんで、そっちの部活を調べると中学校では陸上部がそれぞれ20人ぐらいずついるんですよ。ただ高校になるとそれが3人ぐらいかな、それぐらいしかいないということ、そしてバドミントン部が突然30人ぐらいになるというちょっとね、バランスがあまりよろしくない、美幌も小さい段階では非常に陸上が盛んなんだけど、高校へ行っちゃうとダメになっちゃうのかなというふうには。</p> <p>昔はそんな、部活で高校を選んだことは無かったんですけども、今はやっぱりそういうのが親含めてそうなのかなと。ちょっと危惧するところではあるんですけど。</p> <p>そういうことで、今の先生のお話しに対して皆さんから質問等はありませんか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>その他の方から何か発表することはありますか。</p> <p>無ければ事務局からお願いします。</p>
<p>佐藤主事（事務局）</p>	<p>それでは事務局の方から2点お話しさせていただきたいと思っております。</p> <p>情報提供になるんですけども、来年度、令和5年度以降の会議の開催についてでございます。</p> <p>現在、国の動きとしてデジタルを活用した取組として「デジタル田園都市国家構想総合戦略」というものが閣議決定されまして、詳細については今後お話しさせていただきますが、本日ご説明させていただきました「美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を令和5年度若しくは令和6年度</p>

村田会長	<p>中に改訂する可能性がございます。</p> <p>その際はこちらの委員会を複数回開催させていただきまして皆様にご審議をいただくこととなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>続いて、2点目なのですが、</p> <p>先日ご案内の文書をお送りさせていただいておりましたが、ワーキングスペースKITENという施設が来月、4月1日にオープン予定となっております。みどりの村にございます旧休憩施設「スズラン」を改修した施設でございます。</p> <p>移住相談の拠点とコワーキングスペース、企業のサテライトオフィス、コミュニティカフェといった機能を有した施設でございまして、多様な方々の交流拠点として様々なニーズにお応えできるような作りとなっております。4月1日の午前10時にオープニングセレモニーを開催いたしますので、今週末24日までに出席のご報告をお願いいたします。</p> <p>報告様式は先日お送りした文書に同封しておりますのでご協力をお願いいたします。</p> <p>以上になります。</p> <p>それでは最後になりますけれども、皆さんの方からいいですか。それでは、本日の会議を終了したいと思います。</p> <p>皆様お疲れ様でした。どうもありがとうございました。</p> <p>【閉会】</p>
------	---